

【第5回 全国高校生地方鉄道交流会】

昨年夏、8月24日から26日までの3日間、全国の高校・中学に呼びかけ、のと鉄道において「第5回 全国高校生地方鉄道交流会」を開催いたしました。

学生も含め、鉄道を趣味とする人は多く、広く認知されています。

また、一言で鉄道趣味と言っても、乗り鉄や撮り鉄はじめ、模型鉄や車両鉄など多種多様で、様々なカタチがあります。ただ、これらの趣味も鉄道が存続し、日々機能している状況であるからこそ実体験ができ、活気に満ちたものになっています。

これは、鉄道に関わる多くの人たちの努力と愛情の賜物であるばかりではなく、日々の生活で鉄道を利用する人々が存続しているからこそ作りだされるものです。鉄道は、趣味の対象として距離を置いて眺めるものではなく、地域・環境・風土の中で実際に利用することで楽しみも深まり、社会との繋がりを理解できるものです。

さて、5回目となった今回、一部参加の地元穴水高校も含め、石川と東京の5校が参加してくれました。

様々な努力を重ねると鉄道が、今後も活力ある状態で営業をしていくためにはどういったことに取り組んでいけば良いか、また何ができるかを参加学生が考え、広く意見を交換し、各校が企画を提案させて頂きました。

また、車内写真に関しては、交流会に参加した高校生・中学生がのと鉄道沿線の真夏の一瞬の表情を切り取ったものです。車窓から見える情景と共に楽しみ頂けると幸いです。

今後ものと鉄道が地域の人や観光客に愛され、線路のようにいつまでも長く続いていくことを願っております。

全国高校生地方鉄道交流会会長 大溝 貫之

当車両のヘッドマークは、「第5回全国高校生地方鉄道交流会」企画プレゼンテーション部門において大賞を受賞した「成城学校鉄道研究部」がデザインしたものです。

以前運行していた「急行 能登路号」のヘッドマーク図柄を基本に穴水湾にたたずむ「ボラ待ちやぐら」と七尾湾に浮かぶ「能登島」をデザインした、オリジナルヘッドマークとなっています。



デザイン：成城学校 鉄道研究部